

館林厚生病院だより 2016.11.10

りれいと



vol. 60

理念

信頼、安心 すべては、患者さんのために

基本方針

1. 常に医療資源を効率的に利用し、医療の質と経済性の調和をめざす
2. チーム医療に取り組み、安全な医療と快適な療養環境を提供する
3. 地域医師と共助し、住民の健康を支える病院となる

HP <http://www.tatebayashikoseibyoin.jp/>

医療部長兼救急センター長就任のご挨拶

～健康寿命を延ばすために、みなさんをお願いしたいこと～

平成28年4月1日付で医療部長兼救急センター長を拝命した脳神経外科の松本です。よろしくお願いいたします。

今回、町の「かかりつけ主治医」の重要性についてお話しします。 (救急センター長兼務)



松本 正弘 医療部長

昨今、救急センターを受診される高齢の方の中には、複数の医療機関から多種類の投薬が行われ、その副作用が原因となり、障害が出現していることが少なくありません。加齢に伴い、ある程度は血圧が高くなることは自然ですし、筋力低下などにより運動機能が低下することは病気ではありません。テレビの健康番組を鵜呑みにし、血圧や血糖値を正常化させることが、内服の目的となってしまうと、立ちくらみによる転倒から大ケガをしたり、他の臓器に異常をきたし、動けなくなったりして、本来の健康を損なう恐れがあります。

ここで、町の「かかりつけ主治医」の先生の出番になります。個々の患者さんの状態と生活背景を把握し、有益性の少ない薬剤を整理したり、介護などを含めた生活支援のお手伝いをしたりするのが、その役割です。

まずは、信頼できる「かかりつけ主治医」を作り、その先生を中心として必要に応じて、当院での専門的な医療を受けていただければ、健康寿命を延ばし、安心した老後を過ごすことができると思います。また、当院を受診する際には、「かかりつけ主治医」の



医師から当院への連絡で、より速やかで適切な医療を提供することが可能となります。幸せな健康寿命は、自分で守らなければなりません。ご検討お願いいたします。

DMA T～熊本地震 活動報告～

皆さん、こんにちは。

私は、館林厚生病院の中央放射線室に勤務しております奥村 晃由と申します。普段は診療放射線技師として勤務する傍ら、災害派遣医療チーム DMA T (Disaster Medical Assistance Team) の一員として活動しています。

平成 28 年 4 月 14 日、熊本県益城町を震源とするマグニチュード 6.5 の地震が発生し、16 日には同地域を震源とするマグニチュード 7.3 の地震が発生しました。この地震に対して、熊本県ならびに厚生労働省は DMA T の派遣を決定しました。

発災直後より九州地方の DMA T を中心に全国の DMA T が被災地での医療救護活動に従事していました。私は発災から 1 週間後の 4 月 23 日より 1 週間、「DMA T ロジスティックチーム」として活動してまいりました。DMA T ロジスティックチームとは、各本部において病院支援や情報収集、DMA T や医療救護班、避難所と救護所の管理・調整等の本部活動を行う専門部隊になります。

今回の派遣で私に与えられた任務は、熊本県庁の熊本県医療救護調整本部ならびに益城町の医療救護本部における本部活動でした。

私が派遣された益城町は今回の地震で震源になった地域の 1 つであり、被害状況はテレビ等で報道されている以上に甚大でした。上下水道も復旧途中で、被災された皆さんは給水車や仮設トイレを使用されていました。避難所や車中で生活されている方も多く、そういった生活環境から、感染症の蔓延を防ぐ事に重点をおいて活動していました。

また、車内で避難生活をされている皆さんにはエコノミークラス症候群のリスクがあったため、それらの対策にも力を入れていました。

“すべては被災者のために” という言葉を胸に、我々 DMA T は活動していました。

今回の災害派遣で経験した多くの事を、当院並びに地域の災害対応に活かしていけたらと思います。



(写真：益城町医療救護本部と被災した熊本城)

～館林厚生病院 完成記念式典～

平成28年8月28日（日）、館林厚生病院施設耐震化設備整備事業の完了を記念し、完成記念式典を行いました。式典では、館林市長、邑楽郡の各町長並びに議員



の皆様、群馬大学の教授の皆様、近隣病院の病院長の皆様など、多くの関係者の方々にご臨席いただき、盛大に行うことができました。

今後も館林厚生病院をよろしく願います。

DMA T～群馬県総合防災訓練 参加報告～

平成28年度群馬県総合防災訓練が、9月3日に渡良瀬川河川敷「青少年ひろば」で実施されました。晴天のもと、約1,000人による大掛かりな訓練が行われ、当院からはDMATチームとして7名が参加しました。

訓練の想定は大地震、水害、テロによる有害物質散布と多岐にわたり、現場は自衛隊、消防、警察の大型専門車両や数台のヘリコプターによる救出訓練と大変見ごたえのある光景でした。当院DMATチームはリーダーとして、応急救護所でテロによる負傷者の処置に当たりました。残暑が厳しく、終了後のユニホームは汗まみれでした。



新井院長と当院DMATチーム



集合写真

院内スマイルコンサート

9月13日(火)に新棟が完成してから初めてのスマイルコンサートが開催されました。今回は青空合唱団とオカリナ演奏の方々が出演してくださいました。最初に合唱団の方々が合唱を始めると、多くの方が足を止めてその歌声に聞き入っていました。次のオカリナ演奏の時には、前の合唱団の方や、観客の皆さんでその演奏に合わせ知っている歌を歌いました。最後にはアンコールで「瀬戸の花嫁」をみんなで歌い、大いに盛り上がりました。



第10回館林邑楽医療フォーラム

～誰にでも起こりうる だから知ってほしい、認知症のこと～

今回のフォーラムは「認知症」をテーマに講演いたします。認知症のことを知りたい方、ご家族が認知症の方、認知症の方の介護をしている方、ぜひご参加ください。

日時：平成29年2月4日(土) 13:30～16:30

場所：館林市三の丸芸術ホール

特別講演：「認知症予防のライフスタイルと、認知症にやさしい地域づくり」

講師 山口 晴保 氏 (群馬大学 名誉教授、認知症介護研究・研修東京センター センター長)

定員：先着150名(参加費無料) ※事前申込要

お申込み：館林厚生病院 医療フォーラム担当 (☎0276-76-2032) までお電話ください

申込開始日：平成28年12月20日(火) ～ 定員になり次第終了

受付時間：8:30～17:15 (土日祝日除く)

開催決定!

編集後記

11月に入り、寒い日が増えてきました。上毛かるたでお馴染みの群馬名物「からっ風」も健在です。

気温の変化と乾燥した風に
体調崩さぬよう、ご自愛ください。

担当 T



発行：館林厚生病院
(広報・年報委員会)

〒374-8533

群馬県館林市成島町262番地の1

TEL 0276-72-3140(代) FAX 0276-72-5445



「りれいと」とは「結びつける (relate)」
という意味の英語です。